

NEC iStorageシリーズ iStorage NS300Ra

4

システムの拡張

本体に取り付けられるオプションの取り付け方法および注意事項について記載しています。



- オプションの取り付け/取り外しはユーザー個人でも行えますが、この場合の本体および部品の破損または運用した結果の影響についてはその責任を負いかねますのでご了承ください。本装置について詳しく、専門的な知識を持った保守サービス会社の保守員に取り付け/取り外しを行わせるようお勧めします。
- オプションおよびケーブルは弊社が指定する部品を使用してください。指定以外の部品を取り付けた結果起きた装置の誤動作または故障・破損についての修理は有料となります

「安全上の注意」(84ページ)

安全に作業するための注意事項が記載されています。必ずお読みください。

「静電気対策について」(85ページ)

静電気による電子部品の破損を防ぐための注意事項が記載されています。

「取り付け/取り外しの準備」(86ページ)

システムの拡張を始めるまでの準備について手順をおって説明しています。必ずこの手順に従って作業して準備してください。

「取り付け/取り外し後の確認」(87ページ)


オプションの増設や部品の取り外しをした後の確認事項が記載されています。


「取り付け/取り外しの手順」(88ページ)

取り付け・取り外しの手順について部品単位で説明しています。ここでの手順に従って正しく拡張（または交換）をしてください。

安全上の注意


安全に正しくオプションの取り付け/取り外しをするために次の注意事項を必ず守ってください。


 **警告**



装置を安全にお使いいただくために次の注意事項を必ずお守りください。人が死亡する、または重傷を負うおそれがあります。詳しくは、iii ページ以降の説明をご覧ください。

- 自分で分解・修理・改造はしない
- リチウムバッテリーやニッカドバッテリー、ニッケル水素バッテリーを取り外さない
- 電源プラグを差し込んだまま取り扱わない

 **注意**



装置を安全にお使いいただくために次の注意事項を必ずお守りください。火傷やけがなどを負うおそれや物的損害を負うおそれがあります。詳しくは、iii ページ以降の説明をご覧ください。

- フロントマスクやエアダクトに手をかけて持ち上げない
- 中途半端に取り付けない
- 指を挟まない
- 高温注意
- 感電注意

静電気対策について

本体内部の部品は静電気に弱い電子部品で構成されています。取り付け・取り外しの際は静電気による製品の故障に十分注意してください。

- **リストストラップ（アームバンドや静電気防止手袋など）の着用**

リスト接地ストラップを手首に巻き付けてください。手に入らない場合は部品を触る前に筐体の塗装されていない金属表面に触れて身体に蓄積された静電気を放電します。また、作業中は定期的に金属表面に触れて静電気を放電するようにしてください。

- **作業場所の確認**

- ー 静電気防止処理が施された床、またはコンクリートの上で作業を行います。
- ー カーペットなど静電気の発生しやすい場所で作業を行う場合は、静電気防止処理を行った上で作業を行ってください。

- **作業台の使用**

静電気防止マットの上に本体を置き、その上で作業を行ってください。

- **着衣**

- ー ウールや化学繊維でできた服を身につけて作業を行わないでください。
- ー 静電気防止靴を履いて作業を行ってください。
- ー 取り付け前に貴金属（指輪や腕輪、時計など）を外してください。

- **部品の取り扱い**

- ー 取り付ける部品は本体に組み込むまで静電気防止用の袋に入れておいてください。
- ー 各部品の縁の部分を持ち、端子や実装部品に触れないでください。
- ー 部品を保管・運搬する場合は、静電気防止用の袋などに入れてください。

取り付け/取り外しの準備

部品の取り付け/取り外しの作業をする前に準備をします。ラックからの取り外しは1人でもできますが、なるべく複数名で行うことをお勧めします。

⚠ 注意



装置を安全にお使いいただくために次の注意事項を必ずお守りください。火傷やけがなどを負うおそれや物的損害を負うおそれがあります。詳しくは、iii ページ以降の説明をご覧ください。

- 落下注意
- 装置を引き出した状態にしない
- カバーを外したまま取り付けない
- 指を挟まない



電源コードを本体から取り外した後、約5秒ほど待ってから作業を続けてください。電源コードを取り外してから3～4秒ほどの間、マザーボード上の部品は動作を続けている場合があります。動作が完全に停止してから作業を続けてください。

1. フロントベセルを取り付けている場合はフロントベセルを取り外す（37ページ参照）。
2. 37ページの「取り外し手順」を参照して本体をラックから取り外し、じょうぶで平らな机の上に置く。



本体を引き出したまま放置しないでください。必ずラックから取り外してください。

取り付け/取り外し後の確認

オプションの増設や部品の取り外しをした後は、次の点について確認してください。

- **取り外した部品を元どおりに取り付ける**

増設や取り外しの際に取り外した部品やケーブルは元どおりに取り付けてください。取り付けを忘れたり、ケーブルを引き抜いたままにして組み立てると誤動作の原因となります。また、部品やケーブルは中途半端に取り付けず、確実に取り付けてください。

- **装置内部に部品やネジを置き忘れていないか確認する**

特にネジなどの導電性の部品を置き忘れていないことを確認してください。導電性の部品がマザーボード上やケーブル端子部分に置かれたまま電源をONにすると誤動作の原因となります。

- **装置内部の冷却効果について確認する**

内部に配線したケーブルが冷却用の穴をふさいでいないことを確認してください。冷却効果を失うと装置内部の温度の上昇により誤動作を引き起こします。

- **ツールを使って動作の確認をする**

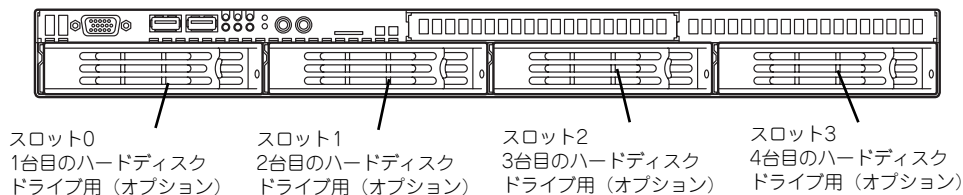
増設したデバイスによっては、診断ユーティリティやBIOSセットアップユーティリティなどのツールを使って正しく取り付けられていることを確認しなければいけないものがあります。それぞれのデバイスの増設手順で詳しく説明しています。参照してください。

取り付け/取り外しの手順

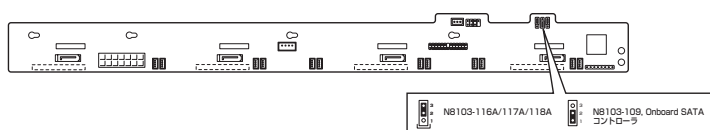
次の手順に従って部品の取り付け/取り外しをします。

ハードディスクドライブ

本体には、最大4台の3.5型ハードディスクドライブを搭載することができます。

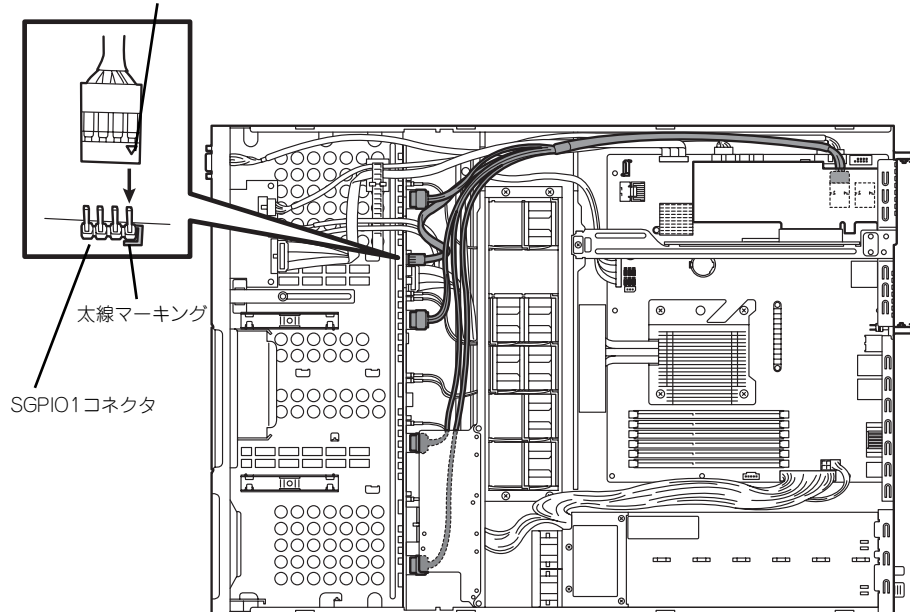


- 弊社で指定していないハードディスクドライブを使用しないでください。サードパーティのハードディスクドライブなどを取り付けると、ハードディスクドライブだけでなく本体が故障するおそれがあります。
- 異なるインターフェースのハードディスクドライブを混在して搭載することはできません。
- 搭載するハードディスクドライブの種類によって、バックプレーンボード上のジャンパの設定を変更する必要があります。下図を参考にジャンパの設定を変更してください。設定が異なりますと正しくハードディスクドライブが動作しなくなります。



ハードディスクドライブベイは、出荷時の構成で本体装置内蔵のRAIDコントローラ (N8103-109相当内蔵) に接続されています。

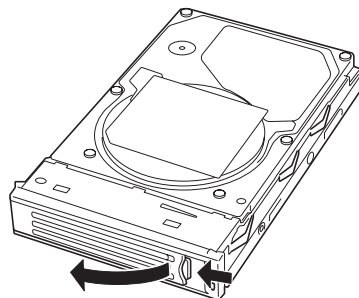
ケーブルの1番ピン (△マークのあるピン) をバックプレーン
ボード上のSGPIO1コネクタの1番ピン (太線マーキング側) に
接続してください。



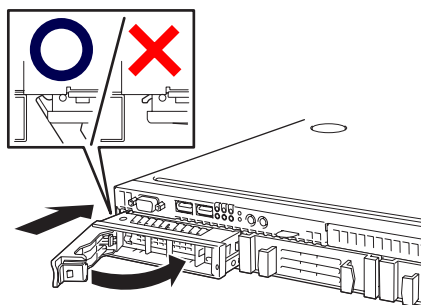
取り付け

次に示す手順でハードディスクドライブを取り付けます。

1. フロントベゼルを取り付けている場合はフロントベゼルを取り外す（37ページ参照）。
2. ハードディスクドライブを取り付けるスロットを確認する。
スロットは本装置に4つあります。左のスロットから順に取り付けてください。
スロット番号は88ページを参照してください。
3. ドライブキャリアのハンドルのロックを解除する。



4. ドライブキャリアとハンドルをしっかりと持ってスロットへ挿入する。



- ハンドルのフックがフレームに当たるまで押し込んでください。
- ドライブキャリアは両手でしっかりとていねいに持ってください。



ハードディスクドライブベイ0とPOWERスイッチは近接しています。ハードディスクドライブの取り付け/取り外しの際に誤ってPOWERスイッチを押さないように注意してください。誤ってPOWERスイッチを押してしまうとシャットダウン処理をされてしまいます。

5. ハンドルをゆっくりと閉じる。

「カチッ」と音がしてロックされます。



ハンドルとトレイに指を挟まないように注意してください。さらにしっかり入っているか、再度押し込んでください。



押し込むときにハンドルのフックがフレームに引っかかっていることを確認してください。

6. 本装置の電源をONにして、SETUPユーティリティを起動して「Boot」メニューで起動順位の設定をする。

ハードディスクドライブを増設するとそれまで記憶されていた起動順位の設定がクリアされるためです。

7. 取り外したフロントベゼルを取り付ける。

フロントベゼル左側のタブが本体のフレームに引っかかるようにしてから取り付けてセキュリティキーでロックします。

取り外し

次に示す手順でハードディスクドライブを取り外します。



● ハードディスクドライブ内のデータについて

取り外したハードディスクドライブに保存されている大切なデータ（例えば顧客情報や企業の経理情報など）が第三者へ漏洩することのないようお客様の責任において確実に処分してください。

Windowsの「ゴミ箱を空にする」操作やオペレーティングシステムの「フォーマット」コマンドでは見た目は消去されたように見えますが、実際のデータはハードディスクドライブに書き込まれたままの状態にあります。完全に消去されていないデータは、特殊なソフトウェアにより復元され、予期せぬ用途に転用されるおそれがあります。

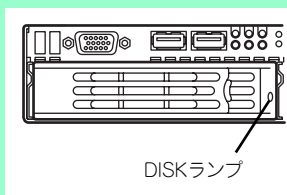
このようなトラブルを回避するために市販の消去用ソフトウェア（有償）またはサービス（有償）を利用し、確実にデータを処分することを強くお勧めします。データの消去についての詳細は、お買い求めの販売店または保守サービス会社にお問い合わせください。

● 電源ケーブルを取り外すときは、次の注意を守ってください。

- ケーブルをねじらない。
- ケーブル部分を持って引っ張らない。
- コネクタ部分を持ってまっすぐに引き抜く。



ハードディスクドライブが故障したためにディスクを取り外す場合は、ハードディスクドライブのDISKランプがアンバー色に点灯しているスロットをあらかじめ確認してください。

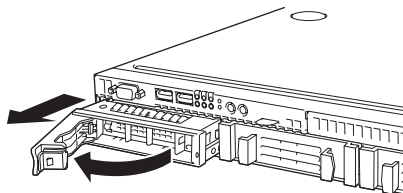


1. 86ページを参照して準備をする。
2. レバーを押してロックを解除し、ハンドルを開く。

**チェック**

ハードディスクドライブベイ1とPOWERスイッチは近接しています。ハードディスクドライブの取り付け/取り外しの際に誤ってPOWERスイッチを押さないように注意してください。誤ってPOWERスイッチを押してしまうとシャットダウン処理をされてしまいます。

3. ハンドルとドライブキャリアを
しっかりと持って手前に引き出す



4. 本装置の電源をONにして、SETUPユーティリティを起動して「Boot」メニューで起動順位の設定をする。

ハードディスクドライブを増設するとそれまで記憶されていた起動順位の設定がクリアされるためです。

5. 取り外したフロントベゼルを取り付ける。

RAIDシステム構成でのハードディスクドライブの交換について

RAIDシステム 構成の場合、故障したハードディスクドライブの交換後、交換した新しいハードディスクドライブに交換前までの情報を記録することにより、故障を起こす以前の状態に戻すことのできるオートリビルド機能を使用することができます。

オートリビルド機能はRAID 1、RAID 10、RAID 5、RAID 6に設定されている論理ドライブで有効です。

オートリビルドは故障したハードディスクドライブをホットスワップ（電源ONの状態でのディスクの交換）するだけで自動的に行われます。

オートリビルドを行っている間、ハードディスクドライブにあるDISKランプが緑色とアンバー色に交互に点灯してオートリビルドを行っていることを示します。



オートリビルドに失敗すると、ハードディスクドライブにあるDISKランプがアンバー色に点灯します。ハードディスクドライブの取り外し/取り付けをもう1度行い、オートリビルドを試みてください。

オートリビルドを行うときは次の注意を守ってください。

- ハードディスクドライブが故障してから、オートリビルドを終了するまで装置の電源をOFFにしないでください。
- ハードディスクドライブの取り外し/取り付けは90秒以上の間隔をあけて行ってください。
- 他にリビルド中のハードディスクドライブがある場合はディスクの交換を行わないでください（リビルド中はハードディスクドライブにあるDISKランプが緑色とアンバー色に交互に点灯しています）。

ドライブカバー

ファンおよび、CPU、バックアップデバイスの取り付け/取り外しや内部のケーブル接続を変更するときはドライブカバーを取り外します。

取り外し

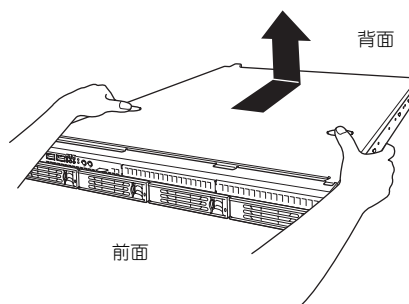
1. フロントベセルを取り付けている場合はフロントベセルを取り外す（37ページ参照）。
2. 37ページの「取り外し手順」を参照して本体をラックから取り外し、じょうぶで平らな机の上に置く。



本体を引き出したまま放置しないでください。必ずラックから取り外してください。

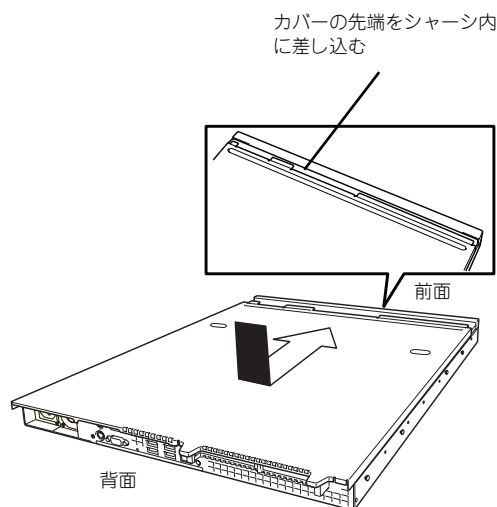
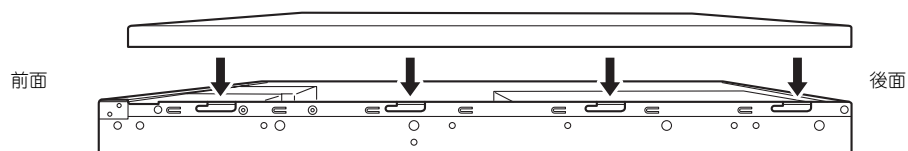
3. トップカバーを取り外す。

くぼみの部分に指をかけて背面へ向けてスライドさせてから持ち上げてください。



取り付け

トップカバーを取り付けるときは、トップカバーにあるフックと本体のフレームにある穴をあわせていねいに本体に置いた後、前面へ向けてスライドさせてください。



DIMM

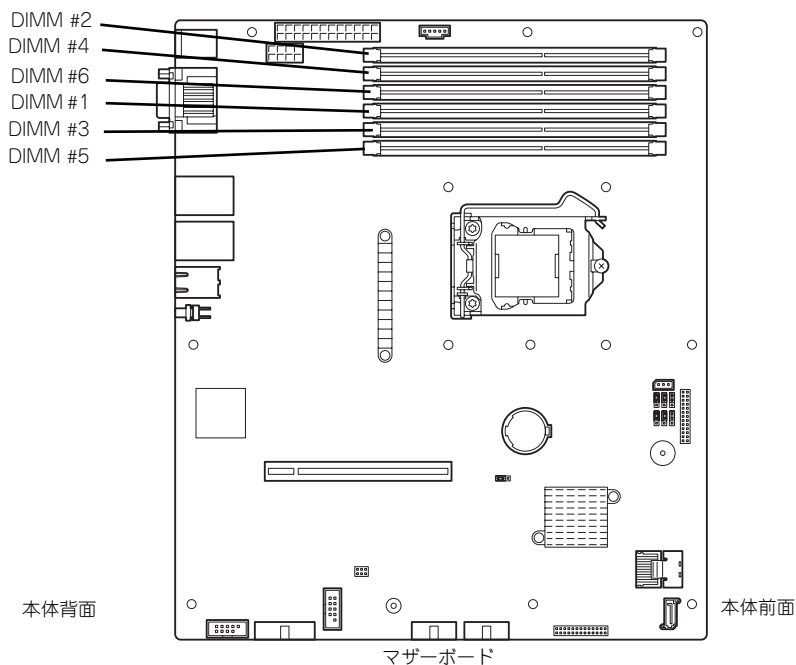
DIMM (Dual In-line Memory Module) は、マザーボード上のDIMMコネクタに取り付けます。マザーボード上にはDIMMを取り付けるコネクタが6個あります。



- DIMMは静電気に弱い電子部品です。本体の金属フレーム部分などに触れて身体の静電気を逃がしてからDIMMを取り扱ってください。また、ボードの端子部分や部品を素手で触ったり、DIMMを直接机の上に置いたりしないでください。静電気に対する注意については85ページで詳しく説明しています。
- 弊社で指定していないDIMMを使用しないでください。サードパーティのDIMMなどを取り付けると、DIMMだけでなく本体が故障するおそれがあります。(これらの製品が原因となった故障や破損についての修理は保証期間中でも有料となります。)
次に示すモデルをお買い求めください(2009年12月現在)。
 - － N8102-365 Pentiumプロセッサモデル用
Unbuffered1GB増設メモリボード
 - － N8102-366 Pentiumプロセッサモデル用
Unbuffered2GB増設メモリボード
 - － N8102-367 Pentiumプロセッサモデル用
Unbuffered4GB増設メモリボード



Pentiumプロセッサモデルでは、メモリはUnbuffered DIMM 最大4枚16GBまで増設できます。



増設順序

DIMMは、Dual Channel（2wayインタリーブ）メモリモードを使用する場合と使用しない場合で増設順序や増設単位が異なります。



- 本装置ではメモリのDual Channel（2wayインタリーブ）メモリモードをサポートしています。
DIMM#1と#2、DIMM#3と#4、DIMM#5と#6に同一容量のDIMMを搭載した場合、Dual Channel（2wayインタリーブ）メモリモードで動作しメモリのデータ転送速度が早くなります。

● Dual Channel（2wayインタリーブ）メモリモードを使用しない場合

増設はスロット番号の小さい順に行ってください。

● Dual Channel（2wayインタリーブ）メモリモードを使用する場合

次の条件を守ってください。

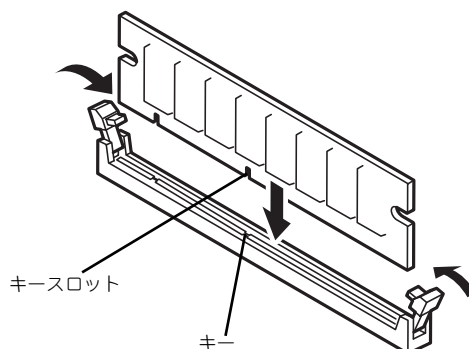
- ー 2枚単位で取り付けてください。
- ー 取り付ける2枚のメモリは同じ容量で同じ仕様のものを使ってください。
- ー 取り付けるスロットはスロット1と2、3と4、5と6を一組としてください。

搭載例：Pentium モデル Unbuffered DIMM	DIMM1	DIMM2	DIMM3	DIMM4	DIMM5	DIMM6	合計
例 1	1GB	—	—	—	—	—	1GB
例 2	1GB	1GB	—	—	—	—	2GB
例 3	1GB	1GB	1GB	1GB	—	—	4GB
例 4	2GB	—	—	—	—	—	2GB
例 5	2GB	2GB	2GB	2GB	—	—	8GB
例 6	4GB	4GB	—	—	—	—	8GB
例 7	4GB	4GB	2GB	2GB	—	—	12GB
例 8	4GB	4GB	4GB	4GB	—	—	16GB

取り付け

次の手順に従ってDIMMを取り付けます。

1. 86ページを参照して準備をする。
2. 取り付けるDIMMソケットの両端にあるレバーを左右に広げ、DIMMをソケットにまっすぐ押し込む。



チェック

DIMMの向きに注意してください。DIMMの端子側には誤挿入を防止するための切り欠きがあります。

DIMMがDIMMソケットに差し込まれるとレバーが自動的に閉じます。

3. 手順1で取り外した部品を取り付ける。
4. 本体の電源をONにしてPOSTの画面でエラーメッセージが表示されていないことを確認する。

POSTのエラーメッセージの詳細については200ページを参照してください。

5. BIOSセットアップユーティリティを起動して「Advanced」メニューの「Memory Configuration」で増設したDIMMがBIOSから認識されていること（画面に表示されていること）を確認する（125ページ参照）。
6. 「Advanced」メニューの「Reset Configuration Data」を「Yes」にする。
ハードウェアの構成情報を更新するためです。詳しくは124ページをご覧ください。
7. ページングファイルサイズを推奨値以上に設定する。

推奨値(Windows Server 2003の場合): 搭載メモリ x 1.5以上

取り外し

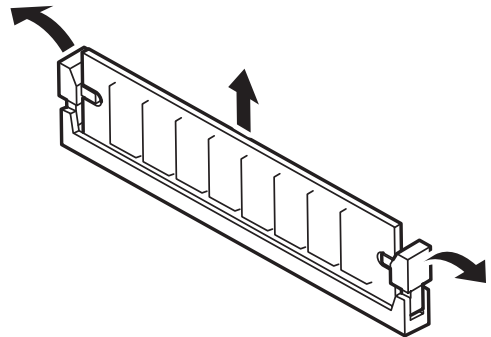
次の手順に従ってDIMMを取り外します。



チェック

- 故障したDIMMを取り外す場合は、POSTやESMPROで表示されるエラーメッセージを確認して、取り付けているDIMMソケットを確認してください。
- DIMMは最低1枚搭載されていないと装置は動作しません。

1. 86ページを参照して準備をする。
2. 取り外すDIMMのソケットの両側にあるレバーを左右にひろげる。
ロックが解除されDIMMを取り外せます。



3. 手順1で取り外した部品を取り付ける。
4. 本体の電源をONにしてPOSTの画面でエラーメッセージが表示されていないことを確認する。
POSTのエラーメッセージの詳細については200ページを参照してください。
5. 「Advanced」メニューの「Reset Configuration Data」を「Yes」にする。
ハードウェアの構成情報を更新するためです。詳しくは124ページをご覧ください。
6. 故障したDIMMを交換した場合は、BIOSセットアップユーティリティを起動して、「Advanced」メニューの「Memory Configuration」で、「Memory Retest」を「Yes」にして再起動する。

エラー情報をクリアするためです。詳しくは125ページをご覧ください。

7. ページングファイルサイズを推奨値以上に設定する。

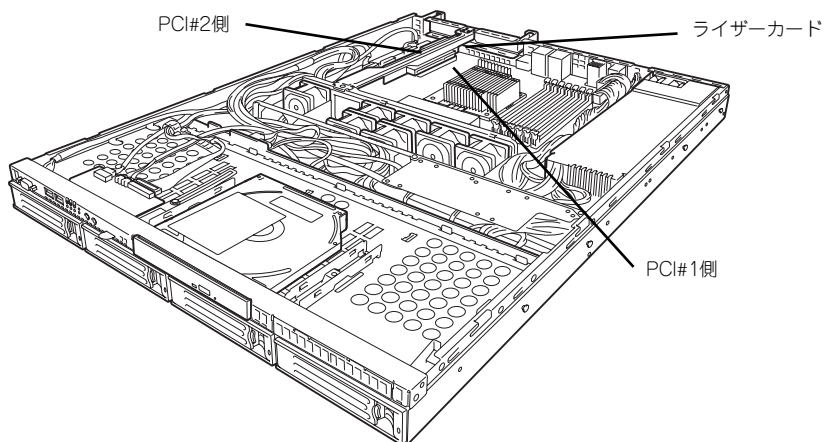
推奨値(Windows Server 2003の場合):搭載メモリ x 1.5以上

PCIボード

本体のマザーボード上にはライザーカードが搭載されています。ライザーカードには、PCI EXPRESSボードを取り付けることのできるスロットが2個あります。



PCIボードやライザーカードは大変静電気に弱い電子部品です。本体の金属フレーム部分などに触れて身体の静電気を逃がしてからボードを取り扱ってください。また、PCIボードおよびライザーカードの端子部分やボードに実装されている部品の信号ピンに触れたり、PCIボードおよびライザーカードを直接机の上に置いたりしないでください。静電気に関する説明は85ページで詳しく説明しています。



型 名	ライザーカード		標準		備 考
	製品名		スロット (バス A)	スロット (バス B)	
			PCIe#1	PCIe#2	
		PCI スロット性能*1	x8 レーン	x8 レーン	
		PCI スロットサイズ	Low Profile		
		PCI ボードタイプ*1	x16 ソケット	x8 ソケット	
		搭載可能なボードサイズ	200mm 以下		
N8103-107	SCSI コントローラ (カード性能：PCI EXPRESS(x1))		○	－	
N8103-104A	SAS コントローラ (カード性能：PCI EXPRESS(x8))		○	－	内蔵 HDD 接続不可
N8103-109 相当	RAID コントローラ (128MB, RAID0/1/5/6) (カード性能：PCI EXPRESS(x8))		－	○	標準搭載
N8104-126	1000BASE-T 接続ボード* (カード性能：PCI EXPRESS(x1))		○	－	N8104-126 同士の Teaming(AFT/SFT/ ALB)は可。他の NIC との Teaming(FEC/ GEC)は不可。10BASE-T は未サポート。 N8104-109 と混在不可
N8104-122	1000BASE-T 接続ボード (2ch) (カード性能：PCI EXPRESS(x4))		○	－	N8104-122 同士の Teaming(AFT/SFT/ ALB)は可。他の NIC との Teaming(FEC/ GEC)は不可。10BASE-T は未サポート。 N8104-109 と混在不可
N8117-01A	増設 RS-232C コネクタキット		○	－	最大 1 枚まで

○ 搭載可能 — 搭載不可

*1 レーン：転送性能（転送帯域）を示す。＜例＞1レーン=2.5Gbps、4レーン=10Gbps

ソケット：コネクタサイズを示す。ソケット数以下のカードが接続可能。

＜例＞x4ソケット→x1カード、x4カードは搭載可能。x8カードは搭載不可。

*2 ライザーカード選択時、2枚以上のボードを増設した場合、動作は最大100MHzとなります。

* 各カードの機能詳細についてはテクニカルガイドを参照ください。

* 同一バス内に異なるカードを実装した場合は低い方の周波数で動作します。

* 製品名のカッコ内に記載されたカード性能とはカード自身が持つ最高動作性能です。

* 本体PCIスロットよりもPCIカードの動作性能のほうが高い場合は、本体PCIスロット性能で動作します。

標準ネットワークについて

* 標準ネットワーク（オンボード）でAFT/ALBのTeamingを組むことが可能。

ただし、標準ネットワークとオプションLANボードで同一のAFT/ALBのTeamingを組むことは不可。

搭載可能なボードのサイズ

* 5Vカードは実装不可。

* Low Profileカードの場合：奥行き131mmまで、幅64.4mmまで

取り付け

次の手順に従ってPCIボードスロットにボードを取り付けます。

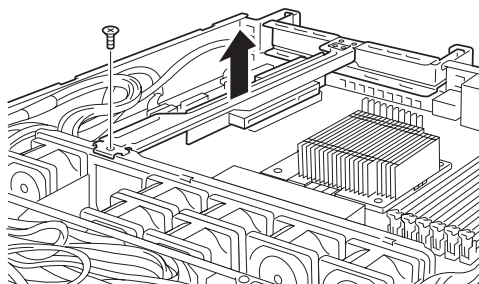


- PCIボードを取り付けるときは、ボードの接続部の形状とPCIボードスロットのコネクタ形状が合っていることを確認してください。
- 内蔵ハードディスクに接続するボードは形状に関係なく、ライザーカードのフルハイト側に取り付けてください。

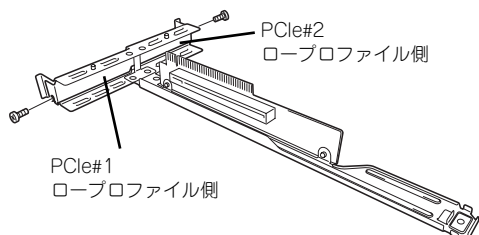


本装置に取り付けることのできるPCIボードはショートタイプのみです。ロングタイプは取り付けることができません。

1. 86ページを参照して準備をする。
2. ライザーカードを固定しているネジ1個を外して、ライザーカードの両端を持ってまっすぐ持ち上げて本体から取り外す。



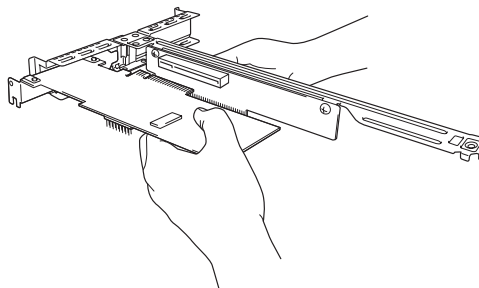
3. ライザーカードからネジ1本を外し、増設スロットカバーを取り外す。



取り外した増設スロットカバーは、大切に保管しておいてください。

4. ライザーカードにPCIボードを取り付ける。

ライザーカードのスロット部分とPCIボードの端子部分を合わせて、確実に差し込みます。



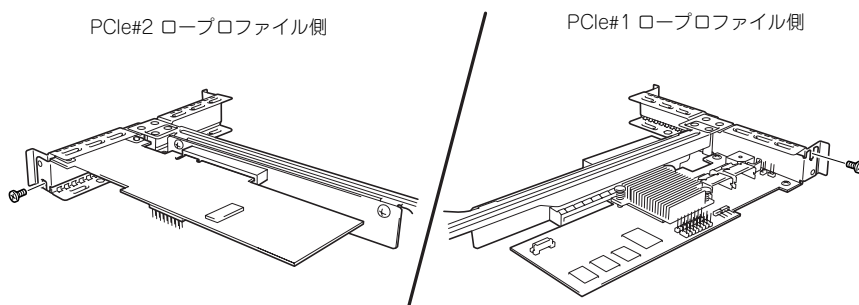


- ライザーカードやPCIボードの端子部分およびボードに実装されている電子部品の信号ピンには触れないでください。汚れや油が付いた状態で取り付けると誤動作の原因となります。
- うまくボードを取り付けられないときは、ボードをいったん取り外してから取り付け直してください。ボードに過度の力を加えるとPCIボードやライザーカードを破損するおそれがありますので注意してください。



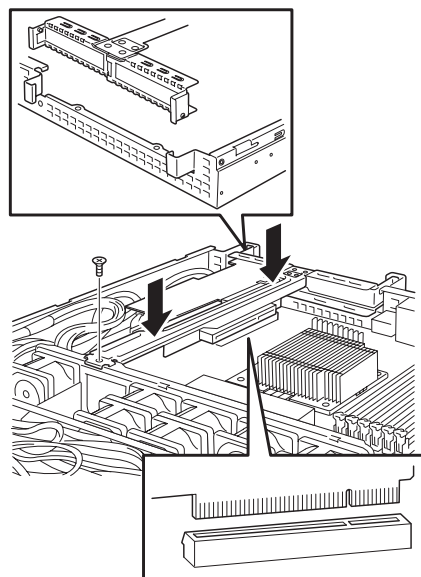
PCIボードのブラケットの端が、ライザーカードのフレーム穴に差し込まれていることを確認してください。

5. PCIボードを手順3で外したネジで固定する。



6. ライザーカードをマザーボードのスロットに接続して、手順2で取り外したネジ（1本）でライザーカードを固定する。

ライザーカードの端子部分とマザーボード上のスロット部分を合わせて、確実に差し込みます。



差し込む際にライザーカードのフレームにある、筐体フレームに引っかけるためのツメが正しく勘合していることを確認してください。また、差し込んだ後、図のようにライザーカードのフレームを指で押し、ライザーカードの端子部分が完全に見えなくなるまで押し込んでください。

7. 取り外した部品を取り付ける。

8. 本体の電源をONにしてPOSTの画面でエラーメッセージが表示されていないことを確認する。

POSTのエラーメッセージの詳細については200ページを参照してください。

9. BIOSセットアップユーティリティを起動して、「Advanced」メニューの「Reset Configuration Data」を「Yes」にする。

ハードウェアの構成情報を更新するためです。詳しくは124ページをご覧ください。また、必要に応じて搭載したボードが持つオプションROMの展開をするかどうかを確認してください。

取り外し

ボードの取り外しは、取り付けの逆の手順を行ってください。

ボードをしっかりと持って取り外してください。また、取り外しの際に本体が動かないよう別の人の本体を押さえてもらいながら取り外しを行ってください。



PCIスロットに搭載したオプションのLANボードに接続したケーブルを抜くときは、コネクタのツメが手では押しにくくなっているため、マイナスドライバなどを使用してツメを押して抜いてください。その際に、マイナスドライバなどがLANやその他のポートを破損しないよう十分に注意してください。

ボードを取り外したまま運用する場合は、ライザーカードに取り付けられていた増設スロットカバーを必ず取り付けてください。増設スロットカバーはネジで固定してください。

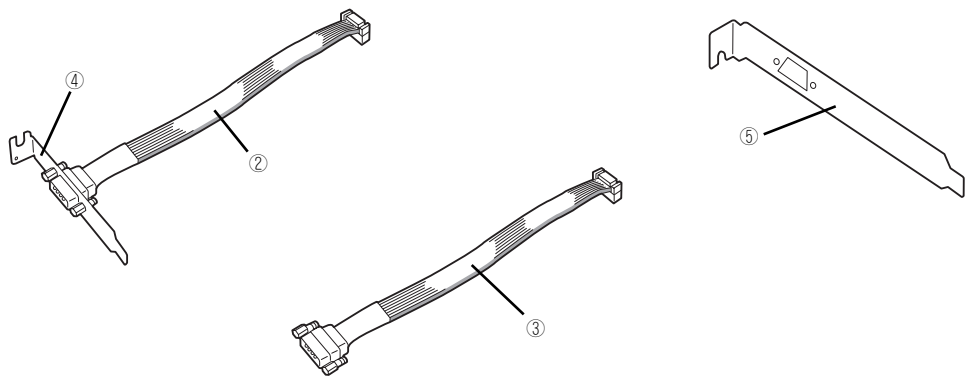


ボードの取り外しや交換・取り付けスロットの変更をした場合はBIOSセットアップユーティリティを起動して、「Advanced」メニューの「Reset Configuration Data」を「Yes」にして、ハードウェアの構成情報を更新してください。

N8117-01Aを取り付ける場合

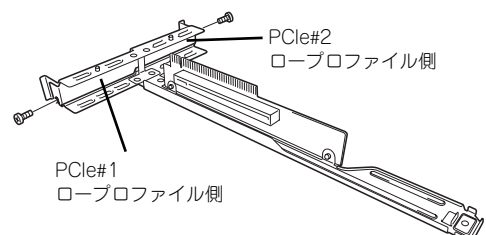
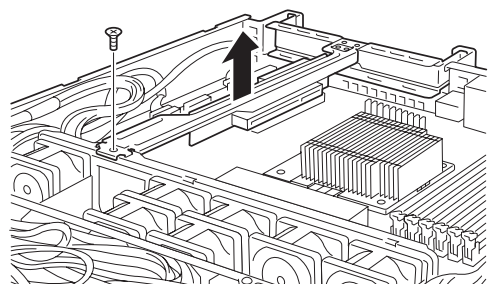
N8117-01Aの構成品は下記です。

項番	品名	指定	数量	備考
①	RS-232C コネクタキット 取扱説明書	856-125671-002	1	
②	RS-232C ケーブル (A)	804-063264-020	1	
③	RS-232C ケーブル (B)	804-062746-820	1	
④	PCI BRACKET(1)	243-112122-001	1	ケーブルに取付済
⑤	PCI BRACKET(2)	243-112122-002	1	Full Height PCI 用



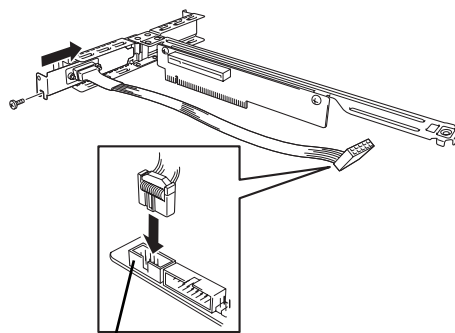
本製品では③と④の組み合わせを使用します。
以下の手順に従って取り付けてください。

1. 86ページを参照して取り外しの準備をする。
2. ライザーカードを固定しているネジ1個を外して、ライザーカードの両端を持ってまっすぐ持ち上げて本体から取り外す。
3. ライザーカードからネジ1本を外し、増設スロットカバーを取り外す。



取り外したスロットカバーは大切に保管してください。

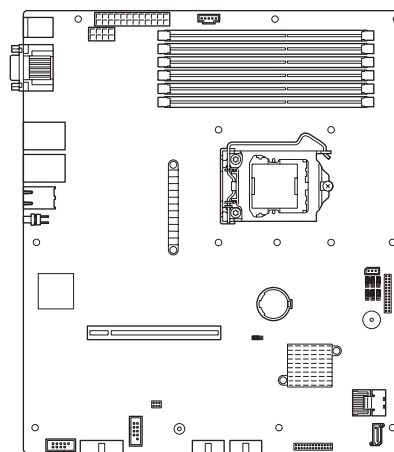
4. PCIブラケットをしっかりと取り付け、手順3で外したネジで固定する。



シリアルポートAコネクタ

5. 他のPCIボードに緩衝しないようケーブルをフォーミングしてマザーボード上のシリアルポートAコネクタに接続する。

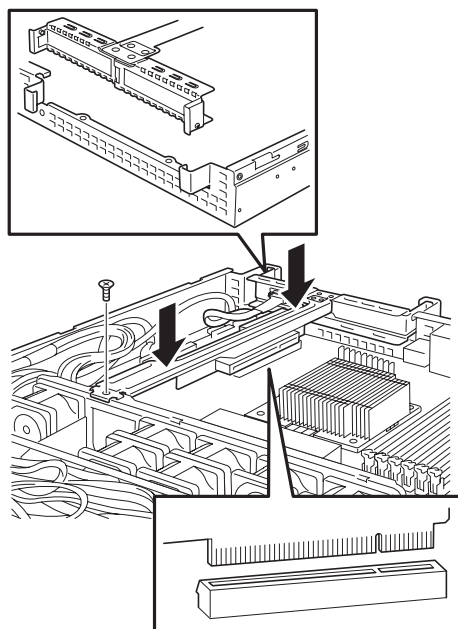
ケーブルを接続する場合、コネクタの極性キーを合わせて誤接続しないよう注意してください。シリアルポートAコネクタの位置は右図を参照してください。

シリアルポート
Aコネクタ

マザーボード

6. ライザーカードをマザーボードのスロットに差し込み、手順2で取り外したネジ（1本）でライザーカードを固定する。

ライザーカードの端子部分とマザーボード上のスロット部分を合わせて、確実に差し込みます。



7. 取り外したスロットカバーや工具、ネジ等が装置内部に残っていないことを確認して装置を組み立てる。

8. BIOSセットアップユーティリティを起動して「Advanced」の「Peripheral Configuration」メニューの「Serial Port A」を「Enabled」に設定（もしくは設定されていることを確認）する（127ページ参照）。

「Enabled」に設定すると「Base I/O Address」、「Interrupt」のメニューが追加されます。

Default設定では

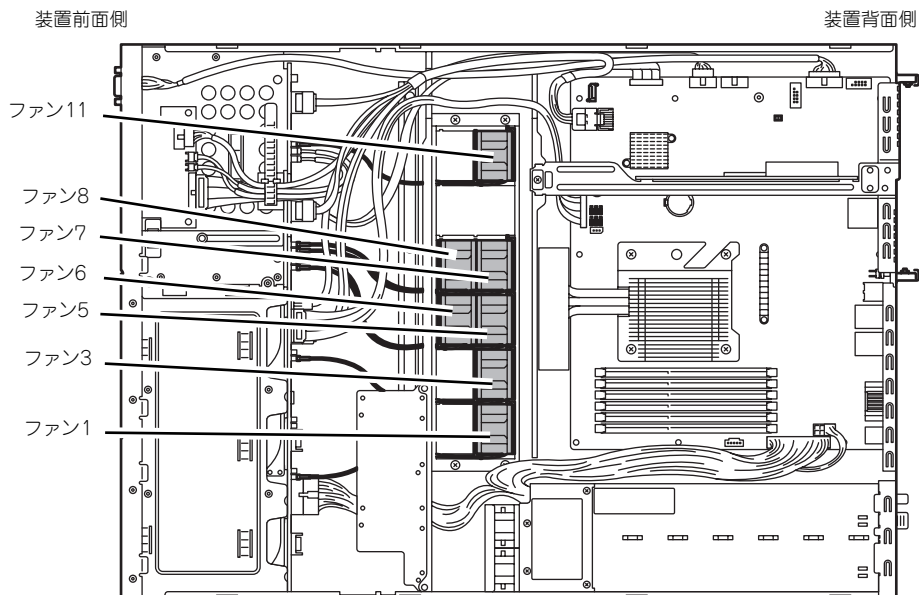
Base I/O Address	: 2F8
Interrupt	: IRQ 3

となります。

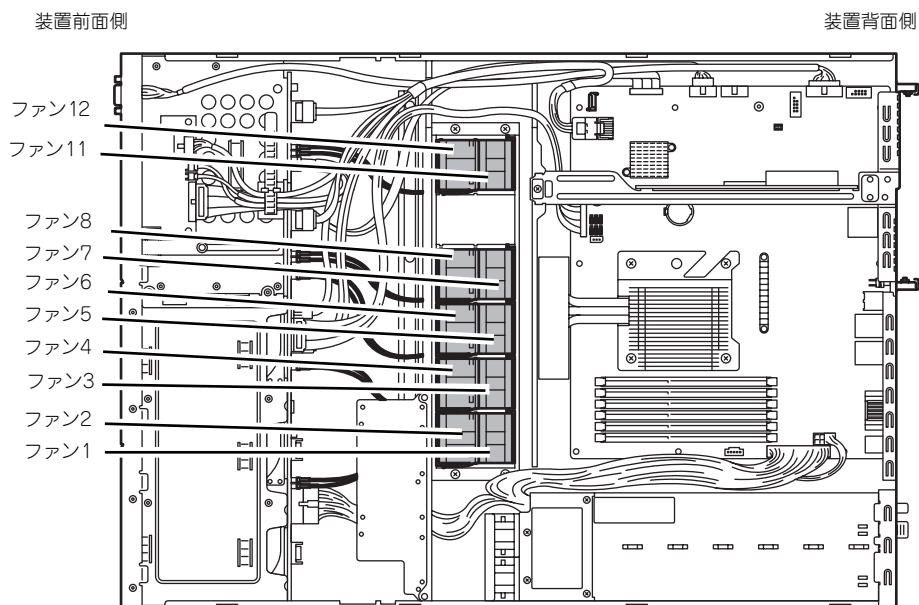
冗長ファン

本装置標準装備のファンとオプションのファンを交換することにより、冷却ファンの冗長化をすることができます。

[標準装備時]

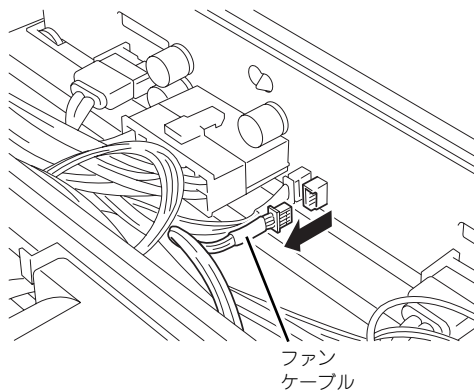


[オプションファン接続時]

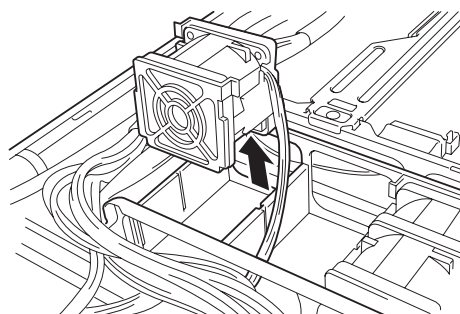


ファンの交換

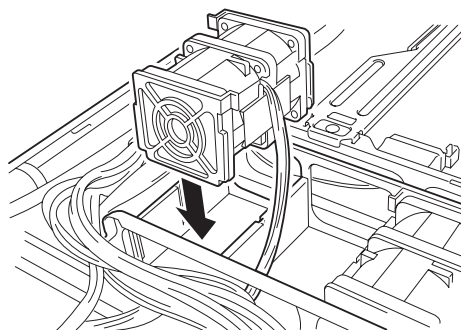
1. 86ページを参照して準備をする。
2. ファンケーブルを取り外す。



3. ファン上部をまっすぐ上に持ち上げ、取り外す。

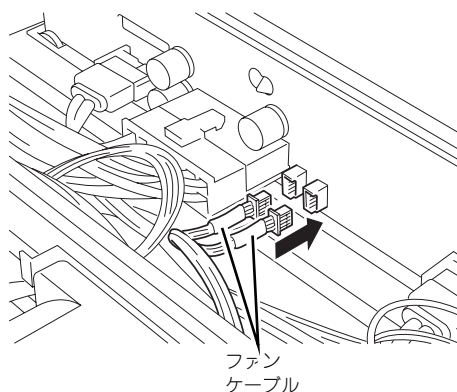


4. オプションファンをまっすぐ下におろして、取り付ける。

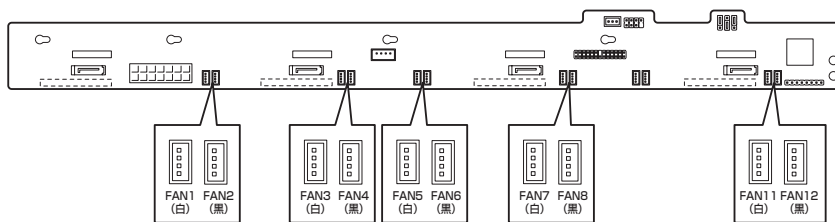


5. ファンケーブルを接続する。

ファンケーブルはトップカバーとファンまたはシャーシに挟まれないようにルーティングしてからコネクタに接続してください。



バックプレーンボード



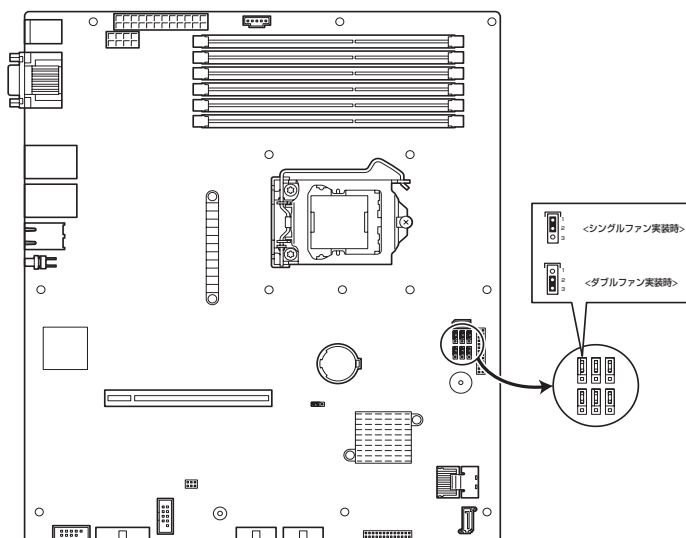
* バックプレーンボードは背面側からのイラストです。



ファンケーブルを接続するコネクタをよく確認してください。108ページの図を参照してください。

6. マザーボード上のオプションファンジャンパピンを変更する。

下図を参照して変更してください。



マザーボード



その他のジャンパの設定は変更しないでください。本装置の故障や誤動作の原因となります。

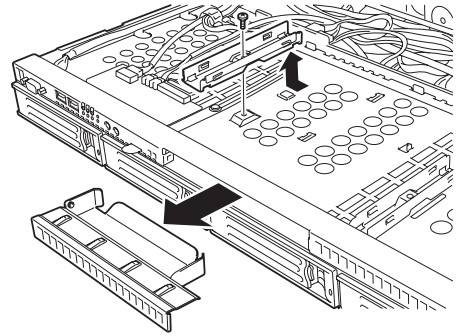
光ディスクドライブ

本体には、内蔵DVD-ROMドライブまたは内蔵DVD SuperMULTIドライブのどちらかを1台を搭載することができます。

取り付け

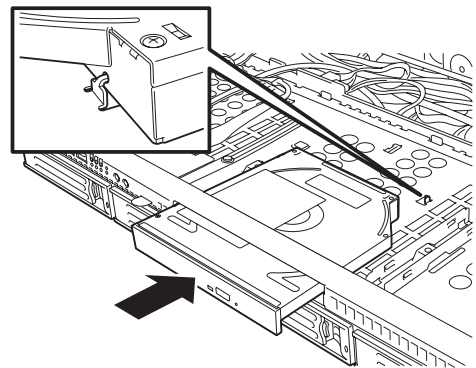
次に示す手順で光ディスクドライブを取り付けます。

1. 86ページを参照して準備をする。
2. 光ディスクドライブ固定ブラケットのネジ（1本）を取り外し、光ディスクドライブカバーを取り外す。

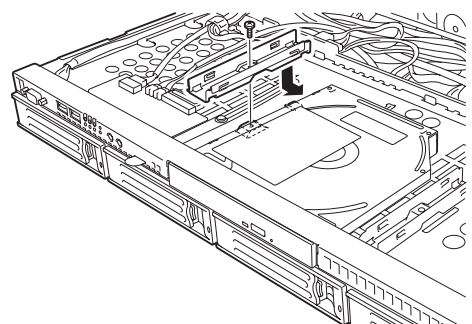


取り外したネジと光ディスクドライブダミートレイは大切に保存しておいてください。

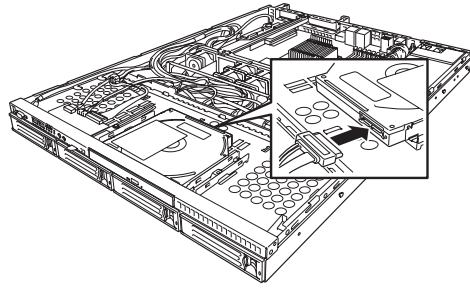
3. 光ディスクドライブを取り付ける。



4. 手順2で取り外した光ディスクドライブ固定ブラケットをネジで取り付け、光ディスクドライブを固定する。



5. 光ディスクドライブケーブルを接続する。



取り外し

光ディスクドライブの取り外しは取り付けの逆の手順で行ってください。